

ブラジルの金利引き上げについて

2014年10月30日

ブラジル中央銀行は10月29日（現地時間）の金融政策委員会において政策金利の0.25%引き上げを決めました。会合では賛成5人、反対3人と意見が分かれていましたが、これで同国の政策金利（翌日物国債レポ取引金利：Selic）は11.25%となりました。引き上げは今年4月以来で4会合ぶりとなります。予想外の利上げ実施となりましたが、実施後の金融、為替市場への影響は限定的となっています。

《政策金利引き上げの背景》

景気後退から抜け出せない状況下での利上げ実施の背景としては、①インフレ抑制、②自国通貨の安定が挙げられます。

- ①ブラジルでは、通貨安による輸入物価の高止まりや財政支出の拡張によりインフレ率が依然として高い水準にとどまっています。
- ②ブラジル・リアルは、大統領選への思惑、高水準の経常赤字、米国利上げ時期の前倒し観測に伴う安全資産選好の動きなどから下振れしやすい変動率の高い状態が続いていました。

《今後の見通し》

ブラジルでは景気の鈍化が懸念されています。8月の経済統計は、鉱工業生産が前年同月比で▲5%を下回り、同小売売上高もマイナスになるなど、引き続き低調な推移となっています。しかし、いずれの指標も前月比では改善しており、主要産業である自動車については生産が増加するなど、悪化が加速する状況ではないと思われます。

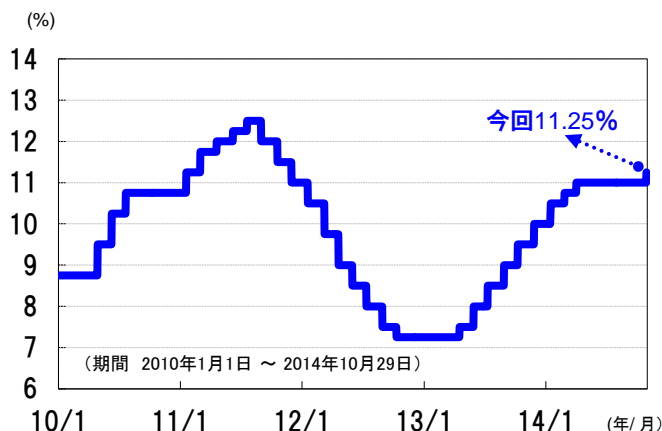
ブラジルでは、インフレ率が同国のインフレターゲットの上限(6.5%)を上回る水準にあり、また財政収支の悪化などにより、金融・財政両面から積極的な景気刺激策は打ち出しにくくなっています。

そのような中で、経済政策面では不人気であったルセフ大統領が再選されたこともあって、今後の経済政策見直しの動向には注目が集まります。

為替市場では、当局による自国通貨買いの市場介入が続いていると思われませんが、今後の政策の行方も睨みながら、当面は神経質な展開が続くとみられます。

状況によっては、安全資産選好の動きからブラジル・リアルが不安定な動きとなることも考えられるため、当社でも引き続き同国に関わる市況動向を注視してまいります。

《ブラジルの政策金利》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

《ブラジルレアルの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。